



## 最新の「へき地」にまつわる情勢②

前回に続き、シミュレーションをした結果などをもとに、今回の算定に関わって「気になる点」をまとめます。

### ③ 1・2月の平均最低気温

「不健康地『極寒地帯』」の適用には、「1・2月の平均最低気温が $-10^{\circ}\text{C}$ 以下」というのがありません。宗谷教組調べでは、声問の平均最低気温が $-10^{\circ}\text{C}$ ちょうどとなることから、この要素の動きに注意が必要です。

| 観測点                 | 稚内   | 沼川    | 声問    | 宗谷岬  | 浜鬼志別  | 豊富    | 浜頓別   | 中頓別   | 北見枝幸 | 歌登    | 礼文   | 本泊   | 沓形   |
|---------------------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|------|------|
| 前回の極寒適用             | ×    | ○     | ○     | ×    | ○     | ○     | ○     | ○     | ×    | ○     | ×    | ×    | ×    |
| この5年間の1・2月平均最低気温    | -6.6 | -12.9 | -10.0 | -6.8 | -10.4 | -11.8 | -10.2 | -16.8 | -9.1 | -16.3 | -6.5 | -7.2 | -6.6 |
| 今回の適用(宗谷教組調べに基づく予想) |      | ○     | ○     |      | ○     | ○     | ○     | ○     |      | ○     |      |      |      |

※気象庁ホームページの資料をもとに、2011年～2015年1・2月の平均最低気温をもとに宗谷教組で計算

### ④ 決められた「基準」のもとで、いかに「へき地性」を立証するか…ということ

基準は決められていて、ルールに沿って計算をして点数を算定するわけですが、その作業の中では「各要素を定める上で、いかに宗谷の『へき地性』を反映させるか」という知恵の寄せ合いが求められます。

たとえば、前回は「体感気温は採用できないのか」という議論がありました。上の表を見てみても、宗谷岬の1・2月は体感的には $-6^{\circ}\text{C}$ どころか、もっともっと寒く感じます。それなのに、気温で算定しようとすると、それほどありません。

調整点数の「多雪」に関わっても同様です。算定に関わっては、「普通交付税に関する省令別表第4(3)」の「積雪の差による地域区分」によって機械的に決められます。市町村合併の影響で旧歌登町の雪の多さが反映されなかったり、地吹雪等による雪の過酷さが反映されているとは言えません。こうした部分をどのように立証していくかということです。道路の通行止め、臨時休校の回数など客観的なデータをもとに宗谷のへき地性を明らかにしていく作業が重要です。

「現状を反映していない」という声を学習会でもたくさん聞きました。こうした声を、客観性を持たせたデータにしていくということです。今後、市町村へき対を中心にしてこうした作業が行われる際には、宗谷の教育関係者として力合わせをしていきましょう。

#### 「積雪の差による地域区分」

| 4級地   | 3級地  |
|-------|------|
| 中頓別町  | 猿払村  |
| 礼文町   | 浜頓別町 |
| 利尻町   | 枝幸町  |
| 利尻富士町 | 豊富町  |
|       | 幌延町  |
|       | 稚内市  |

## 今後の公的な動き

「へき地対策連絡会」の会議が6月3日に行われます。この会議には、市町村へき対の代表者が招集され、管内的な課題について深く議論をするということです。この会議までには各学校の算定やそれに基づく課題などが各学校で論じられることが望ましいですね。それぞれが教育関係者と対話をして、課題を共通にしましょう。

